

あたらしい おかあさんがきた

つねかわ ゆきお／作 武部本一郎／画



あたらしい おかあさんがきた

創作こどもらいふらり

1977年8月／発行©

著者／つねかわゆきお

発行所／株式会社**金の星社**

東京都台東区小島1丁目4-3
電話／東京03-861-1506(代表)
振替／東京0-64678

印刷／熊谷印刷株式会社
製本／小林製本

乱丁落丁本はおとりかえいたしますので、お
求めの書店または本社へお申し出願います。

913 つねかわゆきお

あたらしい おかあさんがきた

金の星社 1977

69ページ 22cm

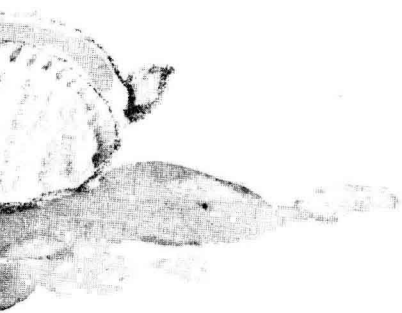
基本カード記載例

8393-033071-1406

がきおかあさんがきた

つねかわ ゆきお／作 武部本一郎／画





もくじ

あたらしいおかあさんて、
どんな人かしら………8

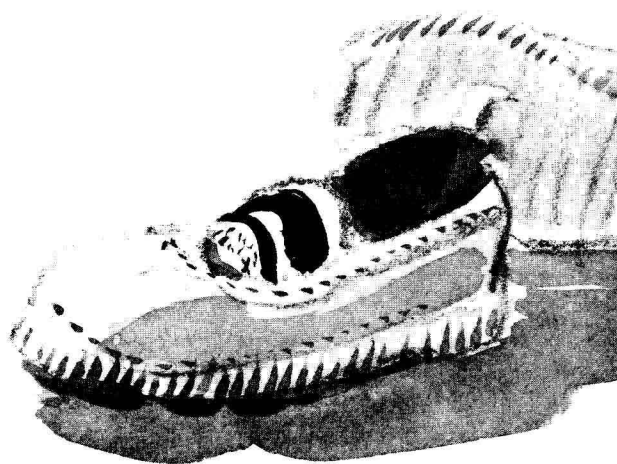
ふしぎなにおい………20

ぼく、はずかしくって………30

きみは、悪い子になっわるていくぞ………40

ありがとうさん、ありがとうさん………59

あとがき………67





■著者紹介



つねかわ ゆきお

本名 恒川 幸雄。一九二七年富山県に生まれる。早稲田大学芸術科卒業。在学中早大童話会に籍を置き、その後「びわの実学校」「宇宙部落」等で児童文学を学び今日に至る。作品に第四回北日本文学賞の最終候補作となった『柳行李』等がある。

■画家紹介



武部 本一郎
たけべ もといちろう

一九一四年、大阪に生まれる。少年時代から画家を志して勉強。戦後上京して絵本・児童図書を中心に広く活動を展開し、けんらんにして、せん細な画風をもつて知られ、近業に「かわいそうなぞう」などがある。出版美術家協会々員。

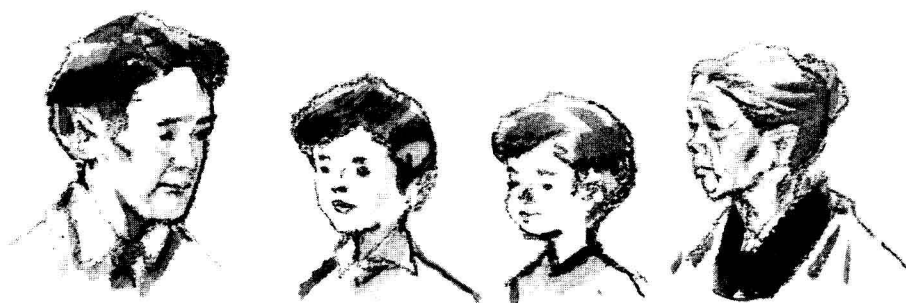
あたらしいおかあさんがきた

つねかわゆきお作

武部本一郎画



あたらしい おかあさんて、
どんな人かしら



たのしかった夏休みも、
あとすこしでおわりです。

夕ゆうはんのとき、おとうさ
んが、

「会社かいしゃのつごうで、九月か
ら、山おくの発電所はつでんしよにいく
ことになったんだよ。」

と、話してくれました。

「発電所はつでんしよって、なあに。」

一年生のさぶちゃんは、
おとうさんにききました。

「山おくの谷間たにまを、コンク
リートでせきとめて、谷川

の水をためて、みずうみをつくるのさ。その水を、大きな鉄のパイプをとおして、ずっと下のほうへおとすんだ。水は、ものすごいやさで、おちていくんだよ。あとからあとから、おちてくる水の力は、ものすごいからな。

その力で、きかいをまわすと、電気がおきるんだよ。それを町の工場や、みんなのうちへおくるんだよ。」

「ふーん。」

さぶちゃんは、うなずきましたが、よくわかりません。

「ぼく、おとうさんといっしょに、その発電所へいきたいんだがなあ。」

ところが、そこは、さぶちゃんたちの町から、たいへん遠いところだそうです。山のふもとの駅で、汽車をおりてから、トラックで、ずんずん山のおくまでいくのだそうです。



トラックをおりてから、また、きけんながけ道を、ずいぶん歩くのだそうです。

「そんな山おくだから、おとなばかりで、しごとをしているんだよ。それに、発電所の近くには、学校もないんだよ。」

「なーんだ、学校がないのか。」

四年生の一郎にいちちゃんも、がっかりした顔をしました。

おとうさんがいなくなると、からだの弱いおばあちゃんと、さぶちゃんと、じぶんとで、うちにいなければならぬからです。

おかあさんは、さぶちゃんの小さいときに、病気でなくなつたのです。

さぶちゃんは、おかあさんの顔を、よくおぼえていません。「さびしいだろうけど、おばあちゃんといっしょに、まってい



るんだよ。毎月まいつきのおわりには、
かならず二、三日にちの休みをもら
って、かえってくるからね。な
んのおみやげがいいかな。」
おとうさんは、ふたりの顔かおを
見ながら、いいました。



九月になると、おとうさんは
大きなリュックをせおって、発はっ
電所でんしよにでかけてしまいました。
毎まいばん、夕はんのとき、三人
は、おとうさんのいる山おくの
ことを話しあいました。



そして、おみやげのあてっこ
をしながら、かえってくる日を
あといく日と、かぞえました。

やくそくどおり、おとうさん
は、おみやげをもってかえつて
きました。リュックから出てく
るおみやげは、くりの実^みだつた
り、きのこだったり、口の中
であまくとける、あけびの実^みだつ
たりしました。

おとうさんは、かみの毛^けがぼ
さぼさで、口のまわりに、黒い
ひげがのびていました。

三人はいつしよに、ふろにはいりました。さぶちゃんは、に
いちゃんときょうそうで、おとうさんのせなかの、あらいつこ
をしました。それから、おとうさんのひげをそるのに、見とれ
ていました。



十二月になると、おとうさんは、いつもより早く、山からか
えつてきました。

発電所^{はつでんしょ}には、もうずいぶん雪がつもっているそうです。おと
うさんは、会社^{かいしゃ}でいろいろと、そうだんする用事^{ようじ}ができたので
早く山からおりてきたのだといいました。

さぶちゃんはうれしくて、勉強^{べんきょう}も手につかなくなっていました
ました。二、三日^{にち}すると、となりの町のおじさんがきて、夜お
そくまで、おとうさんと話していました。

